

図書館だより

<p>①柳澤武著『雇用における年齢差別の法理』成文堂 (xiii+288頁,A5判) 職場における三大差別である性・人種・年齢差別のうち、年齢差別は、誰もが等しく歳を加えることもあり、一部の研究者のみが分析し、是正を求めてきたが、高齢社会の急速な進展に伴い、一般の注目をも集めつつある。著者は、米英等との比較研究に基づき、日本の年齢差別政策に明確な方針を提供しようとしている。</p>	<p>④須藤洋介他著『企業のメンタルヘルス危機管理』高文堂出版社 (221頁,A5判) 経済問題に基づく自殺者の急増のもとで、職場のメンタルヘルスが関心を浴び、長時間労働等を原因とするメンタルヘルスの危機が叫ばれている。本書は、ストレスによるうつ病、アルコール依存等の現状と対応を事例研究に基づき、細やかに解説、メンタルヘルスは企業経営上の重大テーマの一つとなっているのである。</p>
<p>②山本真理著『戦後労働組合と女性の平和運動』青木書店 (324頁,A5判) 「平和運動」という言葉がなつかしく感じられる時代になってしまった。超大国同士の対立は瓦解したが、地域紛争は収束しとまがない。世界の一体化は、日本の平和が危険にさらされる、あるいは日本が世界の平和を危険にさらす恐れを増大させている。過去の労働組合と女性平和運動に学ぶ意義は薄れてはいない。</p>	<p>⑤佐藤忍著『グローバル化で変わる国際労働市場』明石書店 (355頁,A5判) 経済のグローバル化は、各国経済の連係を促し、相互に複雑な布置連関を成立させた。その結果、国際労働力移動が加速化しているが、外国人労働者は、多様な感情をもち、家族も帯同しており、経済論理だけでは解明できない側面も持っている。その複雑な国際労働力移動の実態を著者は地道に、詳細に実証している。</p>
<p>③大山正他編『事例で学ぶヒューマンエラー』麗澤大学出版会 (270頁,A5判) 「過つは人の常、許すは神の性」との諺もあるが、エラーの発生を防ぐことは困難であるので、たとえエラーが発生しても、事故に直結しない方策を考えることが大事になる。本書は交通・医療・産業事故には共通の要因があり、相互に学習可能であるとし、豊富な事例をもとにエラーの心理的メカニズムを分析している。</p>	<p>⑥日本能率協会編『成果主義の新展開』日本能率協会マネジメントセンター (254頁,A5判) 企業経営上、社員の能力をいかに効果的に発揮させるかが最重要課題となり、生き残りをかけた企業の模索が続いている。本書はその解答の一つとしての「成果主義人事制度」について、企業文化等の5つの原則から分析、机上の空論に陥らないか、今とときめく19社の事例研究によって確認が可能な編集になっている。</p>
<p>⑦横田一著『介護が裁かれるとき』岩波書店 (xi+212頁,B6判) ⑧高山憲之他編『少子化の経済分析』東洋経済新報社 (xi+271頁,A5判) ⑨赤井伸郎著『行政組織とガバナンスの経済学』有斐閣 (viii+306頁,A5判) ⑩王文亮著『格差で読み解く現代中国』ミネルヴァ書房 (ix+361頁,A5判) ⑪キャメル・ヤマト著『グローバル人材マネジメント論』東洋経済新報社 (238頁,A5判)</p>	<p>⑫ジョセフ・E・スティグリッツ著『世界に格差をバラ撒いたグローバリズムを正す』徳間書店 (414頁,B6判) ⑬中原厚編著『企業内人材育成入門』ダイヤモンド社 (xii+369頁,A5判) ⑭デンジャー・高野著『私の部下はイギリス人』太陽企画出版 (238頁,B6判) ⑮島内晴美著『団塊フリーター計画』日本放送出版協会 (211頁,新書判) ⑯門倉貴史著『ワーキングプア』宝島社 (222頁,新書判)</p>

(新着受け入れ図書の詳細は、当機構ホームページの「労働図書館」内「新着図書情報」をご覧ください)

今月の耳より情報

本誌二月号でもご紹介したが、二月一日から二月一五日まで、平成一八年度の不用資料(再度強調させていたが、「不要」資料ではなく、スペースの関係上、どうしても保管が不可能になった「不用」資料である)の買取・交換を実施した。館内掲示、取換のホームページ、メールマガジン等で紹介したが、専門図書館協議会のメルマガジンにも掲載していただいた。まだ、実際上の経験はないのだが、この買取・交換イベントのときにはいつも、子供の良縁を待ち望んでいる父(母)親の心境になる。今年ほどどのくらい出を出さなければならないのであろうかと、気になってしまっている。結局今年度は、六人の方から二三のタイトルの雑誌(不思議なことにはほとんどご要望が重複することがなかった)にご要望をいただくことができた。当館から当機構内の各部門への移管希望に応じた後のことなので、少し甘いかもしれないが、四回目の今年買取・交換も、それなりの成果があったと判断している。できれば、すべての資料に引き取り手があることが望ましいが、広報や一時的な情報提供を主とした雑誌もあるため、それらはすでに使命を果たしたということなのだろう。これからは、最後の試みとして関係機関にもご案内し、引き取り手探しをしばらく続けるが、大方の作業は終わったことになる。来年度はより広く、当館の不用資料が再利用されることを期待している。「注目すべき取り組み」として評価された不用資料の買取・交換、来年のこの時期の当館のホームページに注目いただければ幸いです。

図書館長のつぶやき

資料の保管スペースの確保は、いつもながら頭の痛い問題ではあるが、資料の保存状況にも気を配らなければならない。昨年一月、東京三田で、当館も会員である社会・労働関係資料センター連絡協議会(略称、労働資料協)の第二一回総会が開かれた。そのプログラムの中で、初めての取り組みである事例発表・研究発表が行われた。その一つとして、東京大学経済学部資料室の小島浩之氏から、資料劣化状況についてのサンプリング調査の報告があった。興味をひく報告であると同時に、資料保存対策がいかに大変であるかあらためて身につまされることになった。現在のところ、資料の材料用紙は酸性紙が中心(東大経済学部では約七割)であることから、保存対策として、脱酸処理や他の劣化しにくい媒体への代替処理が必要になる。何万点とある対象資料(東大の場合、一八万点の七割)一つずつに対策を施すことになる。気が遠くなるような作業である。資料の重要性、緊急度等から優先順位をつけることになるのである。ひるがえって当館の場合、ほとんどの資料の用紙は酸性紙であるから、同様な対策が必要なのであるが、それより緊急性の高い作業は、地下書庫のカビ対策である。資料保管スペースの絶対的不足から地下の倉庫を書庫化し、利用度の低い資料を地下書庫に別用している。しかし、地下書庫、湿度、等保存環境に問題がある。一部にカビの発生が見られ、防カビ対策を施したうえで資料のクリーニングが優先されるのである。脱酸処理等の対策はそのあと、地道で根気のある作業が待ち構えていることになる。

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書97,000冊、洋書25,000冊、和洋の製本雑誌20,000冊を所蔵している労働関係の専門図書館です。労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。この他にも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(490種)、洋雑誌(220種)、紀要(500種)、組合機関誌・紙についても、受け入れています。

ご案内 労働図書館(資料センター)

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、日本経団連など経営者団体の刊行物や民間研究団体刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特にILO(国際労働機関)総会の議事録やOECD(経済協力開発機構)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションは、戦前・戦後を通して労働組合の歴史的に貴重な原資料を収集、保管しています。

開館時間:9:30~17:00
休館日:土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始(12月28日~1月4日)、その他
電話番号:03(5991)5032/FAX:03(5991)5659
利用資格:どなたでも利用できます
貸出:和書・洋書とも2週間、5冊までです
※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください
レファレンスサービス:図書資料の所在調査などのサービスを行っています